

## 【随筆】

## 今年のタンチョウカウント調査

住 吉 尚

(釧路支部)

タンチョウ保護研究グループが行うタンチョウのカウント調査が、今年も1月24日から始まりました。私は何となく体調が良くないようなので、「無理しないで」という程度の参加です。初日は音別方面です。私の調査担当範囲は尺別から直別までです。尺別に入ると直ぐにヒナ2羽を連れたタンチョウの家族が見えました。良く見るとヒナの1羽は翼が下がっていて飛ぶことができないかも？という感じでした。タンチョウでは羽根が悪い鳥でも何年も生きている個体もありますが、足が悪いと長生きできません。少し心配ではありますが人間が何かできるわけでもありません。気にしながらも次へと向かいます。調査の方は早い段階で鳥が見られた日はたくさんの鳥が数えられるというジンクスがあります。そしてこの日はジンクス通りに総数32羽で、この地区としては過去最高を記録しました。私は担当区域を回り終えたので、残りの調査の手伝いはお断りして帰りました。そして翌日です。今度は阿寒町周辺での調査です。私はいつも桜田から仁々志別方面が担当でしたが、今年は給餌場から上流の阿寒川周辺が調査担当範囲です。私は阿寒川の西側を、もう一班が阿寒川の東半分を調査することになりました。この日は阿寒川の東側でまとまっている群れを見つけましたが、西側にはあまりいませんでした。2回目の巡回時に、堆肥山に付いているヒナ2羽連れの家族を見つけた直ぐ後です。近くの雪原に2羽のタンチョウを見つけ確認に行ってみました。足輪はあるのか？あれば何番か？を調べるつもりで近づくと、ヒナ1、親1、と珍しい組み合わせの2羽でした。近くにもう1羽がいないことを確認して戻ろうとした時です。目の前の堆肥山にオオタカが飛び込みました。そして何かをつかんで飛び立つと、近くにいたカラスがオオタカを攻撃しました。獲物を持ったままでカラスの攻撃をかわすのは不利と感じたのでしょうか。オオタカは獲物を放しました。するとタカの足から飛び立ったのはアカゲラでした。こんな瞬間を見て「オー！」と思っていたので、その時の異変を見逃したのでしょうか。そして翌日も同じ場所での調査でした。昨日は2人で、今日は1人での調査です。あ

ちこち見て、昨日気になった2羽を見たところまで来ました。すると昨日見たのと反対側の何もない広い雪原に2羽のカラスが何かを食べています。「はて？白い羽根、黒い羽根も、しまった！タンチョウの死体だ！」多分昨日からここに転がっていたはずです。だからあの2羽だったのでしょ。ここは大きな高圧電線の真下です。長靴に履き替えて雪原を死体まで行きました。上半身と両翼と左足が残っていました。右足と内臓がほとんどありません。キツネの仕業でしょう。カチカチに凍り付いていました。こんな余計なものを拾うと、調査にも力が入らなくなるというものです。でも与えられた仕事はしっかりやり遂げねばなりませんね。数年前にはこの調査中に闘争でけがをしたタンチョウを見つけて保護しましたが、こんな保護も死体の収容も調査開始以来初とか。なぜか厄介な発見は私ばかりです。世の中には見なくても良いものも沢山ありますよね。



雪原にタンチョウの死体が



収容した死体

阿寒の調査の次は十勝です。27日は忠類から大樹町まで調査でした。天候も良く調査は順調に進み、この地区の総数は調査開始以来の最高数を記録したとか。そして十勝での2日目は池田町方面で、私の担当区域は池田町

から足寄町まででした。そしてこの地区も予想を大きく超えるタンチョウを数えることができました。さてこの日の調査が終わって池田からの帰りです。私は本別から高速道路を使って帰ることにしました。それは池田と本別の間で私たちが足輪を付けた親子がいて、この時点では発見できていなかったの、帰りにもう一度見ながら行こうと思ったからです。そして私が予想した場所にその親子はいました。もちろんですが幼鳥には足輪が付いています。写真を撮って拡大し357と読んで、この日のリーダーに電話で連絡をしました。でも何となく7の頭が丸かったような気がしていました。ともあれ私がこの日報告した総数にさらに3羽をプラスすることになります。こうして家に帰り改めて写真を拡大してよく見ると357ではなく352でした。数字が横向きに変更になったので字の下側が欠けると2が7に見えたのです。ただこれは字が読みにくくなったというよりは私の視力が落ちてきたことが原因でしょう。

水曜日はお休み、木曜日は雪で中止。そして金曜日は標茶町周辺での調査でした。この日は市街地からそう遠



357と読みましたが352の間違いでした



右が古い足輪で左が新しい足輪

くない場所で足輪を付けたヒナ2羽連れの家族を発見。早速足輪の番号を読みます。340と読みました。ヒナ2羽同時に足輪を付けたので当然連番です。もう1羽の方は341と読み報告しました。ところが帰って写真をよく見ると340ではなく346でした。そしてもう一方は341ではなく347の間違いでした。そして今度は番号の下側が欠け7が1に、上が欠けて6が0に見えたのです。足輪の写真を載せましたので番号の数字の一部が欠けて見えたとき、どちらの足輪がより正確に読めるのか？考えてみてください。でも私が間違えたのは写真が良く見えなかったためで、原因は老眼のせいでしょう。これを番号のせいにするのはどうか？と思いました。ともあれ写真を残しているのだから拡大して改めて検証することができたのは幸いでした。視力の問題が大きいとしても、もしかしたら文字を横にしたら読み違う人が出てくると言う証拠かもしれないね。この日は標茶から阿歴内、片無去方面が担当でしたが、こちら点々とタンチョウが見え予想を超える数が見られました。私の担当地区は小雨模様で調査に支障はありませんでしたが、弟子屈方面は吹雪模様でタンチョウは全く見えなかったとか。土日は鶴居地区でした。土曜日午前中は何とか頑張りましたが、体が重く体調に不安があるので、午後は早引きとさせていただきます、日曜日は一日休みを取りました。こうして月曜日です。根室北部での調査でした。私の調査担当範囲は虹別から東の西別川と春別川の間と言う広い範囲でした。2日でやる予定の場所を雪で1日お休みしたため1日でやることになり、とても広い調査地となりました。でもやはり広すぎて全部は回り切れず、半分ぐらいで終わりました。疲れたよー！

カウント調査の最終日はチャンベツ周辺でした。ここで10年以上前からタンチョウが付いている農家が、あまり離れてはいない範囲に3軒あります。1軒目は夫婦どちらにも足輪が付いていません。2軒目は壊れかけたプラスチックの足輪が付いていたと記憶していたのですが、この日はプラスチックリングの鳥は見当たらず、1羽には数年前に付けた新しい足輪がありました。そしてもう1軒には、これも初めて見たのですが、5～6年前に付けた足輪の1羽が見えました。この足輪が付いたタンチョウはごく最近になってこの農家に来るようになった個体ようです。足輪のない夫婦は何年も一緒にいるように見えるだけで、どうやら「タンチョウの夫婦は持っても5～6年と言うのが一般的なのでは？」と言う私の見方が現実に目の前に見せられたようで複雑な気分がしました。ともあれカウント調査はこれで無事終了となり

ました。

このカウント調査時に見たタンチョウ以外の野鳥では、阿寒町の郊外でキレンジャクが1羽。鳥自体は珍しくはありませんが、カラフトイバラの実、ローズヒップと言いますがこれを食べているのを見ました。公園のナナカマドの実を食べているのは良く見ますが、こんなものが彼らの冬の食べ物なのだとことを知りました。また標茶町内でたくさんのアトリが見られましたが、市内まで飛んでくるほどは来ていないのでしょうか？キレンジャクやアトリは年によってたくさん来る年とほとんど見られない年があります。これがなぜなのかはいまだに良くは分かっていません。そして最近あまり見なくなった鳥では、十勝川河口部で見たコミミズクです。でも残念なことに日暮れ間近でしたので写真にはなりません。

調査が終了して1週間が経った時です。またまた「調査に協力してくれ！」との電話が。同じコースを1日2回2日続けて、と言う話でしたが、「体力的に無理、1日だけなら！」と参加。これはタンチョウのカウント調査の精度をさらに上げる方法はないか、調査方法を改善できる方法はないか、を探るための調査です。標茶町周辺の一定コースを何人もの人で何度も回ってみると、どんな結果が得られるか？と言う調査でした。午前中に右回りで、午後からは左回りで観察を行いました。結果を評価するのは先のことになりますが、私が2度回った感じでは、まるで違う結果となりましたので、どんな評価が出るのか楽しみです。この調査中に沢山のマヒワの群れを見ました。林の中を通る道路脇の草が出ているところで、雑草の種を食べているようでした。でもこの鳥はあまり街中には出てきません。マヒワはスズメより一回り小さな黄緑色をしたかわいい小鳥です。日曜日は前日



道路わきのマヒワ

の疲れでぐったり。

そして月曜日は雪です。除雪をしながら庭に来る鳥を見ていました。やはり新しい雪が積もると餌が取れなくなるのでしょうか。沢山の小鳥が集まります。朝最初にいたのはシメでした。頭に雪をかぶっていたので、夕べから止まっていたのかもしれませんが。次に現れたのはシジュウカラです。4～5羽もいたでしょうか。ハシブトガラ、ゴジュウカラ、そしてヤマガラです。スズメは大きな集団でやってきます。さらに4～5羽のヒヨドリです。ヒーヨ、ヒーヨと大きな声で騒がしいので、飛来したのがすぐわかります。すっかり乾いて硬くなったパンやご飯粒を食べているようですが、なければ小鳥用の粒餌でも食べているようです。ツグミは昼近くに現れると餌場を占領してしまいました。さらに1羽だけですがアトリも飛来して大変賑やかな庭になりました。雪が積もると、除雪が大変ですが、色々な小鳥が見られるという楽しみもあります。ただこうして民家の庭に餌を食べにくると言うのはそれだけ小鳥たちには食べ物がないと言うことの裏返しで、餌を見つけられなくて命を落とす小鳥も多いのでしょうかね。

〔句題〕 風の春

「一輪車の  
手入れをしたき風の春」

「舗装路の  
地面引出す風の春」

「日溜りに  
野良猫つどふ風の春」

(室蘭市 白波瀬 稔歳)